

# 化学技術が支える農業



住友化学は2013年3月期の部門別営業利益で健康・農業関連部門が263億円と医薬品部門の309億円と並ぶ稼ぎ頭となり、基礎化学品の不振を始めた。健康・農業関連部門の成長を支える力は海外農業大手との提携だ。

米国の種子大手モンサントとは、北米や南米で主流の遺伝子組み換え種子を用いた大豆畑用除草剤「フルミオキサジン」で連携している。住友化

学は10年にモンサントと除草剤分野で長期協力関係を結ぶ。モンサントが販売する遺伝子組み換え大豆用除草剤「ラウンドアップ」が効果的で、大豆生産者に対するアドバイスも広く受け入れられた。世界首位の米国で「1年かずな」で大豆の生産量を伸ばすため、大豆の生産試験を始めた。米国に続き、南米でもモンサント

の遺伝子組み換え種子を用いた大豆の栽培で、住友化学製品の使用を推薦されるようにする。遺伝子組み換え大豆の生産が伸びている南米の需要増を取り込み、12年度にブラジルで農業事業の売上高を12年度比約25%増の100億円超に引き上げ

## 海外大手と連携

総合化学各社が石油化学事業で培った技術を応用した農業・農薬事業の拡充に動きだした。主力の石油化学事業は、北米のシェールガスや中国の天然ガス、中国の最新設備の新設ラッシュで国内設備のコスト高体質が浮き彫りになった。加えて中国の過剰投資で市況が低迷し、採算割れが続いている。こうした中、景気に左右されず安定収益が見込める農業部門の拡大で経営基盤の強化につなげる。

## 農業、海外展開で安定収益確保

に持つ現地法人で両者での農業を販売する連携で、12年には力ナダやイタリア、東欧で販売連携を開始。販売提携した国は19カ国に達している。

### 農業法人で地域再生

#### まず国内に設立



国内の過疎化が進む地方の農業再生に役立てよう。住友化学は耕作放棄地を活用した農業法人の設立を進めている。

09年5月に設立した「住化ファーム長野」（長野県中野市）を皮切りに、大分県農後大野市と山形県中山町、愛知県西条市でレタスなど、重県志摩市でミツバを栽培する農業法人は耕作放棄地を活用、パート採用で地域雇用にも貢献する。

将来は、こうした農業法人を通じて現地の風土に合った農業などの開発も進む。

13年度から3カ年

の新中期経営計画の期間中に海外での農業支援事務を具現化する見通し

で、東南アジアや中南米での支援が有力とみられる。

「住化ファーム」は、

「住化ファーム」は、